

鎌倉上遺跡第2次 発掘調査説明会資料

2010年9月23日(木)

財団法人山形県埋蔵文化財センター

| 調査要項 | |
|-------|---|
| 遺跡名 | 鎌倉上遺跡2次(かまくらかみいせき) |
| 遺跡番号 | 平成20年度登録 |
| 所在地 | 山形県米沢市窪田町小瀬字鎌倉上 |
| 調査委託者 | 山形県置賜総合支庁建設部道路計画課 |
| 調査原因 | 道路改築事業(国道・交付金)に伴う緊急発掘調査 |
| 現地調査 | 平成22年6月1日～10月15日 |
| 調査面積 | 3,500平方メートル |
| 遺跡種別 | 集落跡 |
| 時代 | 古墳時代 |
| 遺構 | 竪穴住居跡・土坑・河跡・溝跡ほか |
| 遺物 | 土師器・須恵器・木製品・石製品 |
| 調査担当者 | 調査課長 阿部明彦 課長補佐 伊藤邦弘 主任調査研究員 菅原哲文(調査主任) 調査員 山木巧 |
| 調査指導 | 山形県教育庁文化財保護推進課 |
| 調査協力 | 窪田コミュニティセンター、米沢市教育委員会 置賜教育事務所 |



遺跡位置図(1:25,000)

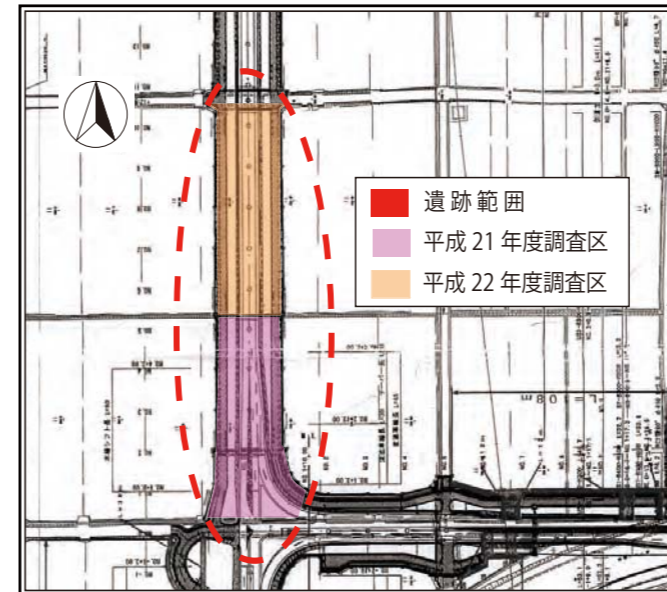
ST102・103なども、柱や構築材の一部が出土しました。これらの住居跡は、食べ物を煮炊きするためのカマドを備えています。ST102は煙道を伴うカマドが状態良く残っていました。カマド内からは、甕(かめ)などがまとまって出土し、カマド脇や住居内には貯蔵穴が備えられています。中からは当時使用されていた土師器が完全な形で一括で出土しました。これらの住居跡は、出土した土師器の特徴から古墳時代後期のものと考えられます。

SX133は大型の土坑で、中からは木製容器や板材、土師器の坏、栗の実などが出土しており、貯蔵穴などの性格が推定されます。

調査区中央には、東西に延びる河川跡が検出されました。幅は約10m、深さは約1.5mで、泥炭が厚く堆積しています。集落の廃絶後に堆積が進んで埋没したと考えられます。

出土した遺物ですが、古墳時代の土師器・須恵器・木製品・石製品が出土しています。

最も量が多いのは古墳時代の土師器で、竪穴住居跡からの出土がほとんどです。カマドや貯蔵穴、また住居の隅から完形で数個体まとまって出土が認められました。器種は、煮炊き用の甕(かめ)、米を蒸すための甑(こしき)、貯蔵用の壺(つぼ)、食物を盛りつける坏(つき)、高い台がつく高坏(たかつき)などがあります。坏は、全体が赤彩され、厚さも薄く作りが丁寧なものや、彩色されず作りが粗雑なものなど多様です。また、出土量は少ないのですが、窯で焼かれた灰色の須恵器が認められます。器種は坏が中心で、他地域で生産された



調査概要図(1:4,000)

ものが流通したと考えられます。木製品は、装飾が施された大型の容器などが出土しました。注目されるのは、黒漆が塗られた櫛(くし)です。竹櫛状の材料を結んだ結歯式(けつし)の縦櫛(たてくし)です。捨て場から出土しました。集落での出土は珍しいといえます。石製品では、2点の石製模造品が出土しています。勾玉形をしたものがあり集落の祭りに用いられたものと考えられます。

3 まとめ

今回の調査では、今年の調査で確認された古墳時代前期以外に、後期を中心とした集落が明らかになりました。東西にのびる河川跡を境とし、南側は前期の、北側は後期の集落が分布しています。また、竪穴住居跡の調査では、焼失住居跡など、柱や建築部材が残された住居が明らかになりました。遺物では、土師器・須恵器・木製品・祭祀具など、古墳時代の生活を具体的に復元できる良好な資料を得ることができました。



昨年の調査で確認された古墳時代前期の集落跡



竪穴住居跡の調査状況



古墳時代後期の竪穴住居跡群



勾玉形石製模造品の出土状況



SX119 石製模造品の出土状況



遺物包含層から出土した結歯式竪櫛と復元図

1 調査の概要

鎌倉上遺跡は、米沢南陽道路の米沢北インターチェンジから西方へ約350mに位置します。西側を流れる鬼面川と東側の最上川に挟まれた低地に立地する古墳時代の集落跡です。遺跡から北東へ約1kmの所には、全長80mに及ぶ前方後方墳の寶領塚(ほうりょうつか)古墳があります。

発掘調査は、国道287号米沢北バイパス建設に伴うものです。工事にかかる遺跡範囲7,000㎡の内、昨年度は南側の3,500㎡を実施しました。今年の第2次調査では、北側の3,500㎡を対象に実施しています。調査は6月1日から開始し、6月2日から17日にかけて重機を使用して表土を除去し、面整理で遺構の検出を行いました。現在、検出された遺構の精査や、写真撮影・記録の作成を進めています。今後、調査区全体の空中写真撮影を実施し、10月15日に現地調査を終了する予定です。

2 検出された遺構と遺物

調査では、古墳時代の竪穴住居跡が10棟、土坑、溝跡、河川跡、畝跡が確認されました。当時の住まいであった竪穴住居跡の平面形は方形で、大きさは一辺3.5m～6mになります。ST105住居跡は火災にあって焼けたと考えられ、住居の柱材や屋根材などが炭化して残されていました。また、



SX133 土坑の遺物出土状況



ST102 住居跡 遺物出土状況



ST102 住居跡 土師器坏・甕出土状況



ST102 住居跡内 土坑の遺物出土状況



ST104 住居跡の遺物出土状況



調査区南側 ST107・108 住居跡



ST104 住居跡カマド周辺出土遺物状況



住居跡周辺で確認された畑の畝跡



SX133 から出土した RW260 木製容器



ST104 住居跡 遺物出土状況



ST104 住居跡 カマド周辺 遺物出土状況



S105 住居跡 遺物出土状況



ST105 住居跡 カマド周辺の遺物出土状況



ST105 住居跡 土師器坏・須恵器の出土状況